

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4076200205		
法人名	社会福祉法人 正松会		
事業所名	グループホーム 椿の里		
所在地	〒820-0084 福岡県飯塚市椿623番地20	Tel 0948-28-3839	
自己評価作成日	平成29年03月22日	評価結果確定日	平成29年04月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者との距離が近く、「いつもそばにいてくれる」と思えるような家庭的な雰囲気がある。 ・利用者の今までの生活習慣や暮らし方、思いを大切にしている。 ・食事は手作りで、利用者にも準備や片付けなどできる事をしてもらっている。利用者やご家族から、「おいしい」と好評である。 ・外出支援に力を入れている。 ・法人内の事業所との連携が取れており、職員の定着率が高い。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号	Tel 093-582-0294	
訪問調査日	平成29年04月17日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「椿の里」は、敷地内にデイサービスや特別養護老人ホーム併設で、法人のサービスが幅広く、安心してゆつくりと暮らせる1ユニット(定員9名)のグループホームである。ホーム内はゆったりとした雰囲気の中、介護職員が利用者の心身の状態を見守りながら、利用者一人ひとりに合わせた介護サービスに取り組み、利用者や家族からの信頼も厚い。調理上手な職員が交替で作る料理は、利用者の好みに合わせて献立を作成し、彩りや味、盛り付けに工夫し、利用者の食べる楽しみや食欲増進に繋がっている。また、かかりつけ医の受診と法人嘱託医や看護師、介護職員との連携により、利用者の24時間は安心して任せられる医療連携体制が図られている。開設15年目を迎え、地域住民や学生、ボランティアの来訪も多く、地域交流も活発で地域の信頼も厚いグループホーム「椿の里」である。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「住み慣れた所で、その人らしく…」の理念を実践につなげられるよう、地域の店や美容室に通ったり、地域行事に参加している。利用者の歩んできた道を大切に考え、できている生活行為や能力が、維持できるような介護に努めている。理念、目標を壁に掲示し、常に目にすることで自覚を促している。	地域密着型事業所としての理念を掲げ、職員は、理念の意義や目的を理解し、家庭的な環境と良好な人間関係の中で、利用者が人間らしい生活や自分らしく暮らせる介護サービスの提供を目指している。また、職員は、介護に悩んだり迷った時には理念を振り返り、介護の原点を取り戻している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りや地域の幼稚園との交流、盆踊りや穂波文化祭、近隣の神社行事の見学など、地域とのつながりが感じられるように取り組んでいる。	利用者と職員は、地域の一員として地域の盆踊りや文化祭等の行事や活動に参加し、法人で行われる夏祭り、幼稚園や小学校との交流に参加して、年々地域との交流の輪が広がっている。また、高校生や看護学校の実習生を受け入れ、将来の介護の担い手の育成にも取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の小学校での福祉体験学習やいきいきサロンなどに参加したり、地域の高校生や看護学校の実習を受け入れ、認知症の理解や支援方法を学んでもらえるようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、取り組み状況や介護状況を報告し意見交換を行っている。会議録は開示し、家族にも手渡し又は郵送している。	運営推進会議は、2ヶ月毎に年6回開催し、ホームの現状や取り組みを報告し、参加委員からは、質問や要望、情報等が提供され意見交換し、「社会貢献」について話し合い、介護相談や認知症予防、高齢者の安否確認等、活発な意見交換の場になっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市担当者が参加し、意見交換を行いながら運営に協力を求めている。又、3か月ごとに、入居者・待機者の情報を報告している。飯塚市介護相談員派遣事業の活動が月1回あり、年度末に開催される意見交換会に参加している。	管理者は、介護の疑問点や困難事例、事故等について行政窓口にご相談し、利用状況等を定期的に報告している。毎月介護相談員が来訪し、利用者や懇談している。また、運営推進会議に行政職員が出席し、ホームの現状を理解してもらい、助言や情報を提供して貰っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はおこなっていない。申し送り時や会議において、職員間で情報を共有しより良い介護方法を検討している。帰宅願望が強い時は一緒に散歩したり、家族への電話や面会等で協力を求めるなどしている。又、法人の身体拘束廃止委員会活動や内部・外部研修に参加し、知識や技術の習得に努めている。	身体拘束の研修会や話し合いを繰り返し行い、職員は、言葉や薬の抑制も含めた身体拘束が、利用者には及ぼす弊害について理解し、言葉遣いや対応に注意し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、日中は利用者が職員の見守りで、自由に玄関を出入り出来るように支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部・外部研修に参加し、「意識しないで虐待になっている事」や「言葉での虐待がないか？」虐待が見過ごされないよう研鑽している。又、職員間でお互いに注意喚起ができるような関係づくりをめざしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部・外部研修に参加し、会議等で伝達研修を行っている。 利用者権利擁護、倫理要綱について掲示している。	外部や内部の研修会に職員が交代で参加し、日常生活自立支援事業や成年後見制度について理解を深め、利用者の権利や財産が、不利益を被らないように取り組んでいる。また、資料やパンフレットを揃え、利用者や家族から相談があれば、制度の内容や申請方法について説明し、関係機関に橋渡し出来る体制を整えている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、利用者や家族にわかりやすく丁寧に説明し、納得の上契約の締結に努めている。 グループホームでできる事とできない事の説明や、特養等との違いなどの説明をおこない、理解や納得を得られるようにしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や利用者家族へのアンケートを行い、介護に活かしている。又、家族懇親会や家族参加の外出、面会時には、情報交換をおこない、要望を伺うようにしている。運営推進会議には、利用者、ご家族が出席している。家族からの要望で、玄関先の水溜まりを改善したり、居室掃除にモップを利用するように改善した。	利用者の日常会話の中から思いや意向を聴き取り、家族面会や懇親会、家族参加の外出時に利用者の近況や健康状態を報告し、家族から意見や要望、苦情等を聴き取り、利用者の介護計画作成や、ホームの運営に反映出来るように取り組んでいる。また、話し合う機会の少ない家族とは電話で意見や要望を聴き取っている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の介護や行事企画、献立作りなどにおいて職員の提案や意見が反映され、利用者と共に職員と一緒に生活を楽しめるように努めている。 法人の全体職員会や代表者会議、各委員会は、報告会に終わらないよう各組織の連携やボトムアップが図れるように取り組んでいる。	毎月の法人会議やグループホーム会議を実施し、職員の意見や要望、アイデア等が出しやすい雰囲気をつくり、活発な意見が出され、充実した会議になっている。また、毎日の申し送り時に職員間で気付きや、心配事を話し合い、管理者に相談し、速やかに解決に向けて取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格習得の支援や研修の機会を確保し、働きがいのある職場づくりに取り組んでいる。 グループホームでは、今年度、職員各自が自己啓発目標を立て向上心をもって取り組める仕組みを作り、質の高いケアをめざしている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用に関しては、職歴だけでなく本人のやる気を大切にしている。グループホームでは、三食手作りの食事を提供している為料理上手な職員も多く、採用後は介護技術等の研修等をおこなっている。	管理者は、職員一人ひとりの特技や能力を把握し、適材適所の人員配置を行い、職員が生き生きと働やすい職場を目指している。また、職員の採用は、人柄や、やる気を優先し、年齢や性別、資格等の制限はしていない。採用後は、介護の知識や技術の向上に取り組む、職員一人ひとりの意欲の向上に繋げている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	グループホームの理念に基づき利用者の人権を尊重する介護が実践できるよう努めている	利用者の人権を尊重する介護の在り方を職員間で常に話し合い、利用者が持っている個性や生活習慣に配慮し、言葉遣いや対応に注意して、利用者の自尊心を損なわない介護サービスの提供に取り組んでいる。また、職員は常に理念を意識し、尊厳のある暮らしの支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部研修の機会を確保し、自己研鑽し、働きがいのある職場づくりをめざしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県グループホーム協議会、飯塚市地域密着型サービス事業所協議会などに参加している。又、他のグループホームとの合同花見会など交流を通じサービスの質の向上に努めている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、ご本人の希望や不安等に耳を傾け、安心して生活して頂けるように努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、ご家族との面談時、希望や不安等を伺い、安心して頂けるように努めている。入所前に関わっていたケアマネージャーや介護サービス事業者とも連携して関係づくりに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入時は、できるだけ時間をつくり必要としている支援の把握に努めている。又、入所前に関わっていたケアマネージャーや介護サービス事業者と連携して初期対応が円滑に実施できるようにしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と一緒に食事をしたり、利用者の能力を把握し、色々な生活動作を共に行うことで「共同生活介護」に取り組む努力をしている。又、できそうなことにも目を向けた取り組みに努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族との関係が途切れないよう状況報告を密におこなっている。車椅子の利用者には、リフト車を使って外出支援を行っている。毎月の利用料金は、直接支払いに来所して頂いたり、お便り等も手渡しするなどして、関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の思い出の場所をドライブしたり、馴染みの美容室の利用を支援している。地元の商店や神社の行事に参加している。近所の方や元職場の同僚が来所することもある。	入居時に利用者や家族の聞き取りを行い、利用者の馴染みの場所や人との関係を把握し、思い出の場所に出かけたり、地域の行事や活動に利用者と一緒に職員が同行し、利用者が長年築いてきた人間関係や、地域社会との関わりが、ホーム入居で途切れないように支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングのソファで利用者同士で会話をしたり、くつろげるような空間を作っている。利用者全員をチームとして捉え、お互いの関わり合いを大切にしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方の家族が自宅でできた農産物やお店のカレンダー等を届けてくれる。その際、近況を伺いながら相談に応じることもある。退所後の入院先を見舞い、相談、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話の中から思いを探ったり、ご家族の来所時に一緒に面談し本人の意向を把握している。意思表示の困難な方は、その表情や仕草から推察するようにしている。ケアプラン作成時やケア会議で、それらを反映し、気づきがあったときは記録し、情報を共有している。	日常生活の中で職員は、利用者の思いや意向を引き出し、本人の言葉を記録し職員間で共有している。意志の疎通が困難な利用者には、家族やベテラン職員に相談し、利用者の表情や仕草を観察しながら、思いを汲み取る努力をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、アセスメントをおこない情報の収集に努めている。今年度は、センター方式の活用を検討している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	集団生活の中にも、個別対応(散歩、縫物、塗り絵、、そろばん等)もおこない、一人ひとりの暮らし方の把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の生活歴を把握し、ご家族や職員で、意見交換をおこなっている。出来ている行為、出来そうな能力にも目をむけて、「見守り、待つ」介護に力を入れている。	職員は利用者や家族とコミュニケーションを取りながら、意見や要望、心配な事を聴き取り、カンファレンスやモニタリングの中で話し合い、利用者一人ひとりに合わせた介護計画を定期的に作成している。また、利用者の状態変化に合わせて、家族や主治医と話し合い、介護計画の見直しをその都度行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送り時や会議等で、利用者の様子や気づきなどの情報交換をおこない、処遇改善をおこなっている。また、介護記録に記載し共有化を図っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	以前利用していたサービス事業所を訪問したり、地域で行われているイベントを見学するなど、利用者の状況や要望に応じた取り組みをおこなっている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者と一緒に近くのスーパーに買い物に行ったり、地域の美容院の利用を支援している。又、地域行事に参加し、地域の方との交流の機会を図っている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前から受診していたかかりつけ医に受診している。毎日の健康管理の記録や気になる症状を主治医に報告し、適切な医療が受けられるようにしている。又、急な体調不良時は、併設施設の看護師や嘱託医に相談するなどの協力を得ている。	利用者や家族の希望を優先し、かかりつけ医の受診支援に取り組んでいる。法人の嘱託医や看護師による往診と、かかりつけ医を活用し、24時間安心して任せられる医療連携が整っている。外来受診の結果は家族にその都度報告して、利用者の医療情報を共有している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の朝礼に参加し、気にかかる症状がある時などは、相談をおこなったり、協力関係ができています。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は、毎日面会に行き、看護師や家族と情報交換を行っている。退院時の諸問題や不安が軽減できるようにしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	申し込み時や契約時、事業所としてできる事とできない事を説明し意向とのずれが生じないようにしている。又、状態変化時等、折に触れて重度化や終末期の介護、看護、医療に関する意向を伺い、ご家族間でも近い将来のことを考えていただくように働きかけている。	ターミナルケアについて利用者や家族に、ホームで出来る支援と、病院でしか出来ない支援を説明し、了承を得ている。利用者の重度化が進むと家族と密に連絡を取りながら、主治医も交えて今後の方針を確認し、関係者で方針を共有し、利用者の終末期が、安心して暮らせる環境を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時や急変時の対応について実践研修をおこなっている。事故時の状況を検証し、その原因や対策について検討し、事故の再発防止に努めている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施している。地域の自衛消防隊と契約し協力体制を整備している。災害時の備えとして3日分の食料と備品を準備している。	法人全体で防災訓練を定期的実施し、通報装置や消火器の使い方を確認し、非常口、避難経路、避難場所を確保し、利用者全員が安全に避難出来るように取り組んでいる。また、地域の自衛消防隊と協力体制を確立し、いざという時に備えている。非常食、飲料水の備蓄も用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排せつ介助時や入浴時だけでなく、日常的に相手の人格を大切に声掛け、介護に努めている。	利用者のプライバシーが損なわれていないかを、カンファレンスや毎日の申し送り時に確認し、言葉遣いや対応に注意し、利用者が持っている価値観や生活習慣を尊重したケアに取り組んでいる。また、利用者の個人情報や、職員の守秘義務については、管理者が説明し、周知が図られている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者のコミュニケーション能力に応じ、自己決定しやすいように心がけている。 意思表示が困難な場合は、その表情などを読み取るようにして職員の一方面的押し付けにならないように心がけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるが、利用者が拒否した時は無理をせず、時間や日にちを変更している。 利用者ができるだけ穏やかに過ごせるように心がけている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧品や髪染め、パーマなどその人らしさを大切にしている。又、本人に衣類を選んでもらう機会を作っている。 衣類等は、ご家族が本人の好みを考えて購入して頂いている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の誕生日には、本人の希望を伺い準備している。食事の下ごしらえや片付けなど利用者の能力に応じて参加してもらっている。 季節の食材を使い、職員も利用者と一緒に食卓を囲み会話を楽しみながら食事をしている。	食事は利用者の力の発揮や、他の利用者や職員とコミュニケーションを図る場として捉え、下拵えや後片付けを手伝ってもらい、作って食べる楽しい時間である。利用者と職員がテーブルを囲んで談笑しながら食事する様子は、家庭的で温かい楽しい食事風景である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事量や水分摂取量を記録し、職員間で情報共有をしている。体調不良時は、個別の支援を実施している。主治医からも水分量や塩分等のアドバイスをもらっている。個人の状態や摂食能力に応じた食形態の工夫もおこなっている		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個人の能力に応じた方法で口腔ケアをおこなっている。 夜間は義歯の洗浄を支援している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンや能力を把握し、定時の声掛けや誘導だけではなく、随時対応をおこなっている。 紙パンツから布パンツに変更したり、ベッドの位置や向きを変更してできるだけトイレで排泄できるよう自立支援の視点をもって介護に努めている。	全室トイレ洗面所付きで、職員は利用者の排泄パターンや生活習慣を把握し、早めの声掛けや誘導を行い、失敗の少ないトイレでの排泄の支援に取り組んでいる。また、オムツやパットの研修を行い、リハビリパンツから布パンツに変更して、利用者の自信回復に繋げている。夜間も出来るだけトイレ誘導を行い、オムツ使用の軽減に取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜や豆類、海藻類を意識してバランスの良い食事が提供できるよう調理をしている。又、ラジオ体操や運動を毎日実施している。排便困難時は、腹部をマッサージしたり飲水を勧めたり、又、状況に応じては主治医に相談をしている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の好みに応じた湯加減にしたり、能力に応じた入浴介助をおこなっている。入浴を拒否された時は、時間を変更したり、翌日入浴を行っている。 季節感が味わえるようにしょうぶ湯やゆず湯、入浴剤など使うこともある。 個別支援を行い羞恥心に配慮した対応に心がけている。	利用者の希望を優先し毎日入ることも可能で、週3回を基本として、湯船にゆっくり浸かってもらい、菖蒲や柚子、入浴剤を入れて楽しい入浴支援に取り組んでいる。また、入浴が難しい利用者には、無理強いせずに清拭や足浴に変更し、清潔保持に努めている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は本人の習慣等に応じて対応している。 昼寝の習慣のある人、照明など個人の好みに応じている。週1回、リネン交換を行い、季節に応じた寝具や室温調整で、気持ちよく眠れるように支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	体調を記録し症状の変化を職員間で共有している。 お薬手帳やお薬の説明書を整備、管理をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや洗濯物干し、雑巾づくり、調理の下ごしらえなどをおこなってもらっている。レクリエーション時に工作等の手仕事などに取り組んでいただき役割をもって過ごせるよう努めている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域のの人々と協力しながら出かけられるように支援している	太宰府の竈神社やおおとう道の駅、地域の神社、公園などに出かけ、気分転換や季節を感じられるような取り組みをおこなっている。ご家族や地域の方との交流の場にもなっている。	日常的には自然が残る環境の、ホーム周辺の散歩に出かけ、利用者が季節の移り変わりを五感で感じ取っている。外出レクリエーションを季節毎に行い、花見や道の駅、神社に出かけ、利用者の生きがいに繋がる外出の支援に取り組んでいる。外出レクに家族が同行することもあり、利用者の楽しみなひと時である。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる方は、買い物や美容室の支払いは、ご本人がおこなっている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いを出したり、手紙のやり取りの支援、電話の取次ぎをおこなっている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室、リビングに湿温度計を置き快適な環境整備に努めている。浴室、脱衣室に冷暖房を整備している。苑庭の樹木や草木に季節を感じていただいたり、カーテンを開閉することで不快や混乱を招かないようにしている。対面式キッチンで包丁の音や料理のにおいなど生活が感じられる。	リビングルームの大きな窓から眺める景色は季節感が漂い、対面式の台所から、リズムカルな包丁の音や料理の匂いに誘われて利用者が集まり、楽しい食事が始まっている。仲の良い利用者同士が隣に座り談笑したり、職員とゲームや体操で盛り上がり、明るい雰囲気での共用空間である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファの配置を変更したり新たなソファを設置したり、テーブルや食席の配置等を変更して心地よく生活できる工夫をおこなっている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ご家族や地域の写真や使い慣れた生活備品、仏具、本人が作成した物、思い出の物など持ってきてもらい心地よい生活空間を作れるようにしている。	利用者の馴染みの家具や寝具テレビや生活必需品を家族の協力で持ち込んでもらい、生活環境が急変しないように工夫し、利用者が自宅と違和感を感じないように配慮し、安心して穏やかに過ごせる清潔で、居心地の良い居室である。また、トイレや洗面所が設置されているので、面会者もゆっくり寛げる環境が整っている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の部屋やトイレがわかるような表示、ベッドサイドに衝撃吸収マットやセンサーを設置したり、夜間はトイレの電気を点灯するなど自立支援を視点にした取り組みを心がけている。本人の移動能力に応じたベッド配置を行い、安全に生活できるように配慮している。		